

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書

地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインのための知識基盤の整備に関する研究

| | | | |
|-------|--------|------------------|-------|
| 研究分担者 | 大森 純子 | 東北大学大学院医学系研究科 | 教授 |
| | 永田 智子 | 慶應義塾大学看護医療学部 | 教授 |
| 研究協力者 | 梅田 麻希 | 兵庫県立大学地域ケア開発研究所 | 教授 |
| | 嶋津 多恵子 | 国立看護大学校 | 教授 |
| | 小林 真朝 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科 | 准教授 |
| | 三森 寧子 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科 | 准教授 |
| | 川崎 千恵 | 国立保健医療科学院 | 主任研究官 |
| | 米倉 佑貴 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科 | 助教 |
| | 永井 智子 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科 | 助教 |
| | 江川 優子 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科 | 助教 |
| | 小西 美香子 | 横浜市総務局 | 課長 |
| | 佐川 きよみ | 葛飾区健康部 | 係長 |
| | 須藤 裕子 | 小鹿野町保健福祉センター | 主査 |

研究要旨：本分担研究は、「地域における保健師の保健活動に関する指針」の実用化を進めるために、「地域特性に応じた保健活動推進ガイドライン」の知識基盤構築を目的として実施した。研究期間3年間の最終年度である本年度は、地区活動に関する質問紙調査を実施し、全国的な保健師の地区活動の実態、関連要因とその効果を分析した。また、本研究のアウトカム及び関連要因として作成したオリジナル尺度の信頼性、妥当性を検証した。

A. 研究目的

本研究は、「地域における保健師の保健活動に関する指針」を実用化するための「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」の知識基盤の構築を行うことを目的として実施した。研究期間3年間の最終年度にあたる今年度は、地区活動に関する質問紙調査を実施し、活動体制、地区活動に関する実態及び関連要因を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 実態調査：

全国的な保健師の地区活動の実態、関連要因及

びその効果を明らかにするために質問紙による横断調査を行った。研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（17-A094）。

質問紙は、文献検討の結果に基づき、資料1の仮説モデルを設定した。アウトカムである「行政保健師の職業的アイデンティティ」（根岸、麻原、柳井、2010）と「保健師の道徳的能力」（Asahara, Kobayashi, Ono, 2015）の測定には既存の尺度を用い、「住民・地区への意識」については保健師への聞き取り調査に基づいて項目を抽出し、オリジナルの尺度を作成した。また、関連要因である「地区活動の体制」と「地区活動の方法」につい

ても、保健師の聞き取り調査に基づいて項目を抽出し、オリジナル尺度を作成した。

調査対象は、全国分布を反映したサンプリングを確保するために自治体規模別(人口 50 万以上、20 万以上 50 万未満、5 万以上 20 万未満、5 万未満)に対象となる保健師数を算出した。予定回収数は 1570 名(62 自治体)であり、対象数に達するまで、自治体のサンプリングと依頼を行った。

選定した施設に調査協力の文書を送付し、調査協力の同意が得られた自治体に調査票を送付した。

分析方法は、保健師の個人の属性、活動体制について、各関連要因と各アウトカムの基礎統計を算出した。地区活動の関連要因や、地区活動がアウトカムに及ぼす影響を詳細に検証するために、個人属性、組織要因を説明変数とし、自治体ごとのランダム切片を含めたマルチレベル分析を実施した。

因子構造の検討には、探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転)、その後、確認的因子分析を行い、適合度を確認した。項目内容、パス係数から適宜モデルを修正し、最終モデルを選定した。分析は SPSS ver. 25、Amos ver24.0、および STATA15 を用いた。

C. 研究結果

1. 実態調査：

協力依頼を送付し、研究協力の同意が得られた 52 自治体 2074 名に調査票を配布した。調査期間は、2018 年 2 月～6 月であった。①保健師管理者調査票(各自治体 1 枚)の有効回収数は 39 名(75.0%)であった。保健師個人調査票の有効回収数は、721 名(34.8%)であった。

1) 活動体制の実態(保健師管理者調査票)

保健師の部門別活動体制(N=152)は、「地区担当のみ」3(2.0%)、「地区担当制と業務担当制の併用」42(27.6%)、「業務担当制のみ(地区割あ

り)」17(11.2%)、「業務担当制のみ(地区割なし)」90(59.2%)であった。自治体種別業務体制、本庁・保健所・保健センター別業務体制のいずれの体制においても「地区担当のみ」は非常に少なかった。

2) 地域/地区活動を評価するための尺度の開発

仮説モデルに基づき自治体保健師へインタビューを行い抽出された「組織体制に関する項目」、「保健活動の方法に関する項目」、「保健活動等についての考えに関する項目」について、因子構造を明らかにし、尺度の信頼性、妥当性を検討した。

① 地域/地区活動を促進する環境

組織体制に関する項目では、【組織の方針の明確さ】【地域に関する情報共有の機会の確保】の 2 因子構造が示された(GFI=0.980, CFI=0.979, RMSEA=0.052)。尺度名を「地域/地区活動を促進する環境」とした。<資料 2>

② 地域/地区活動の方法

保健活動の方法に関する項目では、【住民とのつながりを求める活動】【地域特性を考えた活動】【地域という単位を意識した活動】の 3 因子構造が示された(GFI=0.978, CFI=0.985, RMSEA=0.055)。尺度名を「地域/地区活動の方法」とした。<資料 3>

③ 地域/地区活動による自身および地域/住民への認識

保健活動等についての考えに関する項目では、【保健師としての充実感】【地域/住民に対する愛着】【地域/住民との一体感】の 3 因子構造が示された(GFI=0.972, CFI=0.985, RMSEA=0.055)。尺度名を「地域/地区活動による自身および地域/住民への認識」とした。

<資料 4>

3) アウトカム(地域/地区活動による自身および地域/住民への認識、保健師の道徳的能力、行政保健師の職業的アイデンティティ)に関連す

る基本属性や関連要因

本調査のアウトカムである「地域/地区活動による自身および地域/住民への認識」、「保健師の道徳的能力」、「行政保健師の職業的アイデンティティ」において、すべての下位尺度で「地域づくり」との有意な関連があった。性別、保健師基礎教育課程、所属自治体、所属組織（本庁、保健所、保健センター、その他）、活動体制（地区担当のみ、地区担当・業務担当併用、業務担当（地区割あり）、業務担当（地区割りなし）、職位、経験年数と比べても、「地域づくり」の関連が最も大きかった。

D. 考察

今回の調査により、全国規模の調査における活動体制の実態が明らかになると共に、「地域/地区活動の方法」、「地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識」、「地域/地区活動を促進する環境」および関連要因が示された。地域づくりを行っている保健師は、行っていない保健師に比べて、肯定的な認識を持ち、道徳的能力が高く、保健師としてのアイデンティティを持っている傾向が示された。地域づくりは、「保健師としての充実感」「地域/住民への愛着」「地域/住民との一体感」等の認識面への効果が期待でき、活動体制以上に影響を与えていた。活動体制に関わらず地域づくりは行うことができ、保健師の日々の活動を意識的に地域づくりに結びつけていけるような環境づくりや教育体制が求められる。

また、今回の調査で、地域/地区活動を評価するためのオリジナル尺度を作成した。「地域/地区活動の方法」、「地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識」、「地域/地区活動を促進する環境」が具体的に示された。これらは、個々の保健師の活動の振り返りや、組織として活動方針を検討する際の指標となると考える。今回の調査結果を広めていくことで、地域/地区活動を促進し、組織レベルでの環境づくりと個々の保健師

の能力を高めていくことに寄与することができると考える。

E. 結論

本年度は「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」の知識基盤の構築として、地区活動に関する質問紙調査を実施した。活動体制の実態、「地域/地区活動の方法」、「地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識」、「地域/地区活動を促進する環境」および関連要因が示された。

引用文献

- ・根岸 薫, 麻原 きよみ, 柳井 晴夫 (2010). 「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討. 日本公衆衛生雑誌, 57(1), 27-38.
- ・Kiyomi ASAHARA, Maasa KOBAYASHI and Wakanako ONO (2015). Moral competence questionnaire for public health nurses in Japan: Scale development and psychometric validation. Japan Journal of Nursing Science, 12, 18-26.

F. 健康危険情報

情報なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- ・永井智子、梅田麻希、麻原きよみ、三森寧子、遠藤直子、江川優子、小林真朝、佐伯和子、大森純子、嶋津多恵子、川崎千恵、永田智子、佐川きよみ、小西美香子：地域保健活動における主要用語の定義—デルファイ法を用いた全国調査—、第77回日本公衆衛生学会総会

(2018. 10. 26)

- ・嶋津多恵子、梅田麻希、米倉佑貴、川崎千恵、遠藤直子、永井智子、三森寧子、江川優子、小林真朝、佐伯和子、大森純子、永田智子、佐川きよみ、小西美香子、麻原きよみ：全国自治体における地区担当制および業務担当制に関する業務体制のメリットの認識，第7回日本公衆衛生看護学会学術集会（2019. 1. 27）
- ・永井智子、梅田麻希、米倉佑貴、川崎千恵、嶋津多恵子、遠藤直子、三森寧子、江川優子、小林真朝、佐伯和子、大森純子、永田智子、佐川きよみ、小西美香子、麻原きよみ：保健師の地域づくり活動実施と道徳的能力、職業アイデンティとの関連：全国自治体における横断調査，第7回日本公衆衛生看護学会学術集会（2019. 1. 27）

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

<資料1>

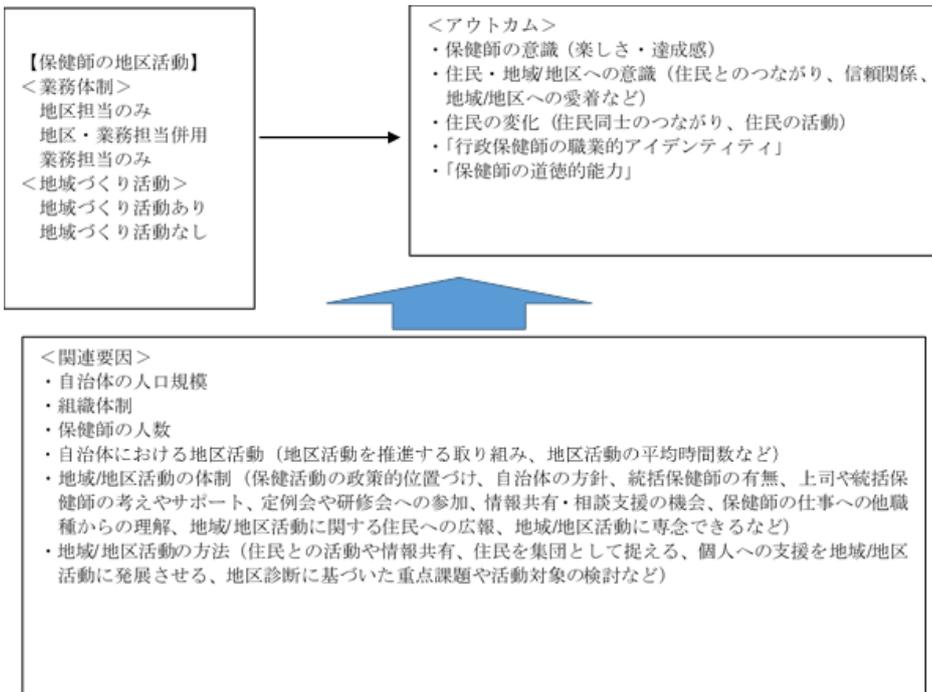


図. 仮説モデル

<資料2>

表. 地域/地区活動を促進する環境 因子構造

| 【組織の方針の明確さ】 (α = 0.746) | | 標準化係数 |
|--------------------------------|---|-------|
| Q11.1 | 所属する自治体全体として、保健活動と連携する地域/地区づくりの方針・体制がある | 0.70 |
| Q11.2 | 上司や統括的立場にある保健師に、保健活動についての明確な考えがある | 0.69 |
| Q11.3 | 保健師が、地域/地区を集団と捉えて保健活動を行うための研修を受ける機会がある | 0.73 |
| 【地域に関する情報共有の機会の確保】 (α = 0.790) | | |
| Q11.6 | 保健師が、地域/地区の課題を他の保健師と共有する機会がある | 0.80 |
| Q11.7 | 保健師が、地域/地区の課題を他職種や関係機関と共有する機会がある | 0.65 |
| Q11.8 | 地区活動担当者の情報共有・相談の場として定期的なミーティングがある | 0.67 |
| Q11.12 | 日常的に保健師相互の情報共有・相談支援の機会がある | 0.66 |
| Q11.15 | 保健師の地域/地区活動について、地域住民に対して広報、知らせる機会がある | 0.53 |

<資料3>

表. 地域/地区活動の方法 因子構造

| 【住民とのつながりを求める活動】(α = 0.815) | | 標準化係数 |
|-----------------------------|-------------------------------|-------|
| Q18.2 | 地域/地区に出向くことを意識して行っている | 0.69 |
| Q18.4 | 住民の声を聞く努力をしている | 0.81 |
| Q18.5 | 住民から地域の情報を得ている | 0.83 |
| 【地域の特性を考えた活動】(α = 0.897) | | |
| Q18.8 | 地域/地区の特性(暮らし、文化、風習)を考えた活動している | 0.91 |
| Q18.9 | 地域/地区の特性(自然環境、地域資源)を考えた活動している | 0.90 |
| 【地域という単位を意識した活動】(α = 0.819) | | |
| Q18.12 | 個人への支援を地域/地区活動に発展させている | 0.71 |
| Q18.15 | 地域/地区の料金の姿を考えた活動している | 0.77 |
| Q18.16 | 地区診断に基づいて、重点課題や活動方法の検討を行っている | 0.76 |
| Q18.17 | 保健師の存在や活動を地域住民に対して知らせる努力をしている | 0.70 |

<資料4>

表. 地域/地区活動による自身および地域/住民への認識 因子構造

| 【保健師としての充実感】(α = 0.910) | | 標準化係数 |
|--------------------------|------------------------------|-------|
| Q19.1 | 私は保健師の活動が楽しい | 0.88 |
| Q19.2 | 私は保健師の仕事から達成感を得られる | 0.89 |
| Q19.3 | 私は保健師の仕事に満足している | 0.86 |
| 【地域/住民に対する愛着】(α = 0.815) | | |
| Q19.5 | 私は地域/地区への愛着がある | 0.77 |
| Q19.7 | 私は地域/地区の住民に対して何が出来るか、常に考えている | 0.74 |
| Q19.8 | 私は住民とつながることができてうれしい | 0.81 |
| 【地域/住民との一体感】(α = 0.883) | | |
| Q19.10 | 私は住民から頼りにされる | 0.84 |
| Q19.11 | 私は住民と相談し合える関係である | 0.86 |
| Q19.12 | 私はいつでも住民とともにある存在である | 0.80 |
| Q19.13 | 地域/地区の住民の間につながりができていると思う | 0.74 |